

授業概要

本講義は、近代日本が経験した主要な戦争を取り上げ、それらを取り巻く国際関係や国内状況などを検討していくことにより、戦争の発生要因や歴史的意義、あるいは戦争に対する指導者および国民の意識などを明らかにしていきたい。歴史を専門としない学生にもわかりやすいように、できるだけ具体的な事例を交えながら、戦争を通して日本近代史の特質を理解してもらえるように講義する。

なお、適宜ビデオ教材も使用しつつ、授業内容への理解を深めていくこととする。

授業計画

第1回	授業の進め方の説明
第2回	日清戦争① 東アジア情勢
第3回	日清戦争② 日本の対外姿勢
第4回	日清戦争③ 国民の日清戦争観
第5回	日露戦争① 対露関係と日英同盟
第6回	日露戦争② 日露戦争の意義
第7回	日露戦争③ 戦後日本の転換
第8回	第一次世界大戦① 参戦目的
第9回	第一次世界大戦② 総力戦と国家改造論
第10回	第一次世界大戦③ パリ講和会議と日本
第11回	満州事変と日中戦争① 事変の背景と世界最終戦論
第12回	満州事変と日中戦争② 軍の台頭
第13回	満州事変と日中戦争③ 中国への侵攻
第14回	太平洋戦争① 南進と日本包囲網の形成
第15回	太平洋戦争② 開戦へ
第16回	筆記試験

到達目標

現在の日本社会を洞察するといった観点から、しばしば近現代の歴史を学ぶことの重要性が指摘されている。本講義では、今日の東アジアにおいて閉塞状況に陥った日本の針路を模索する眼を養うべく、過去の日本が戦争という「危機の時代」にどう向き合い、どのように振る舞ったのかを学ぶことを通じて、歴史の教訓を得ることを目指したい。

履修上の注意

- (1) 歴史に興味のある学生を対象としていることを特に強調しておきたい。
- (2) 遅刻 3 回で欠席 1 回と見なす。
- (3) 授業中の「私語」は厳禁。

予習・復習

- (1) 授業で取り上げるテキストの箇所は、授業内容を理解しやすくするためにも、毎回必ず事前に読むなどの予習を徹底すること。
- (2) 授業の理解度をチェックするための小テストを適宜実施するので、復習を心がけること。

評価方法

学期末試験〔論述形式〕70%と小テスト 30%の合計点で成績評価を行う

テキスト

『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』加藤陽子、新潮文庫

授業概要

日本の歴史が始まってからおよそ2000年の時が流れているが、その間にどのような経過をたどって現代の私たちの社会に至ったのか。それを知っておくことは社会人として欠くことのできない素養であり、よりよい未来を創造するための土台となる。過去という根をもたぬ現在も未来も、ありえないのだ。何よりそのことを学んでもらいたい。使う教科書は、キャッチフレーズによれば、『暗記する日本史』から『考える日本史』へ——高校教科書とはちがう新たな『日本史』との出会い」という本である。要するに、日本史の常識的知識を講義する。と同時に、歴史や文化を学ばなければいけないと考える気持ちそのものを涵養する。

授業計画

テキストの目次にしたがって以下のように進める（各回末尾のpp.数字は教科書のページを示す）。内容の重要度などによって、多少は流動的になる（次回にはみ出す）ことがあるかもしれない。

第 1 回	ガイダンスとオリエンテーション
第 2 回	日本列島への人類の渡来と定住（旧石器時代、縄文文化など） pp.2~7
第 3 回	弥生時代から古墳時代へ（水田稲作と金属器の普及、古墳の出現と展開など） pp.8~13
第 4 回	ヤマト王権の政治と外交（邪馬台国、倭の五王の外交、大王権力の伸張など） pp.14~19
第 5 回	飛鳥時代の政治と文化（仏教公伝、推古朝の政治改革、遣隋使の派遣など） pp.20~24
第 6 回	律令制導入への道（大化改新、白村江の戦い、壬申の乱、天武・持統朝など） pp.25~30
第 7 回	平城京と地方社会（律令と官僚制、国司と郡司、仏教と民衆など） pp.31~35
第 8 回	平安遷都（遷都と蝦夷戦争、藤原北家の隆盛、富豪層と院宮王臣家など） pp.36~40
第 9 回	摂関政治と地方の争乱（受領の暴政、天慶の乱、摂関政治、浄土信仰など） pp.41~45
第 10 回	院政（荘園整理令、院政の展開、荘園と公領、領域型荘園の景観と構造など） pp.48~55
第 11 回	鎌倉開幕（前九年・後三年合戦、保元・平治の乱、源平の争乱と開幕など） pp.56~61
第 12 回	執権政治の展開（承久の乱、御成敗式目、中世農民の地位と闘争など） pp.62~67
第 13 回	モンゴル戦争（得宗専制、文永・弘安の役、永仁の徳政令、鎌倉仏教など） pp.68~74
第 14 回	南北朝内乱（鎌倉幕府滅亡、建武新政、南北朝の内乱、室町幕府など） pp.75~81
第 15 回	京都・室町幕府の推移（足利義満の時代、日明貿易、義持・義教の時代など） pp.82~87
第 16 回	試験を実施（定期試験期間中に筆記試験）

到達目標

日本人として、あるいは、日本に暮らす者として、常識的に知っておくべき出来事や人物についての知識を獲得すること。とくに、漢字を正しく読み、正しく漢字で書けるようになることを求める。

履修上の注意

- *遅刻・欠席・途中退出・私語などは厳に慎むこと。一タシラバスで注意しなくとも、これは常識であり、かつ礼儀でもある。学生として、あるべき受講態度で臨むこと。
- *将来、日本史や日本文化を学ぶゼミを選択したいならば、ぜひ修得してもらいたい（たんに履修でなく、「修得」である）。

予習・復習

- 【予習】 毎回、翌週に講義するページを指示するので、必ずあらかじめテキストを読んでおく。
【復習】 もう一度、テキストを読み返し、ノートを整理する。

評価方法

期末に実施する筆記試験（60分、100点満点）によって評価する。出題形式は、説明文に該当する人名や事件名などを答えるものを予定している。

配点比率：学期末試験 100%

テキスト

教科書（必須）：『大学でまなぶ日本の歴史』 木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編
（吉川弘文館、2016年、ISBN978-4-642-00831-0）

参考書（任意）：必要に応じて講義の中で紹介する。また、教科書の各章末に参考文献が挙がっている。